

知恵の樹

No. 236 2019.6.25

町田の図書館活動をすすめる会
<https://machida-library.jimdo.com>

代表：手嶋 孝典
tejitaka@f8.dion.ne.jp

随想特集「45年の歴史ある大型古書店・町田の高原書店 閉店」に寄せる想い

2019年5月8日、思いがけない驚きのニュースをキャッチしました。「町田の高原書店、閉店」と。「すわ、本を愛する人たちに伝えなければ！」と、すぐに「すすめる会」の会員メールに情報を流しました。そして、そこに『知恵の樹』で取り上げるほどのことと思います。意義ある企画で取り上げたいと希望し、提案します」と書き添えました。かけがえのない場を失い、心にぽっかりと空いた穴の質を自分に問ううち、語り合ってみたいと思うことになりました。そのため今号では、緊急、数名の方に寄稿をお願いしました。年代も、お仕事も異なる方々ですが、今“街創り”の提言や行動に積極的に時間を割いている方、本をこよなく愛される方々です。＜禍を転じて福と為す＞へ。「本を愛する人が核となった文化運動が起きないかなあ」と、次の場が開かれることを願っています。
(久保礼子／当会会員)

すべての本に時代的価値がある 守谷信二

5月8日、高原書店が突如閉店した。その数日前、用事があってお店を訪ねたら、「本日、臨時休業」の貼紙。翌日行っても同様なので、不思議に思って電話したら、すでに使われていないとのアナウンス。ネット検索して、はじめて倒産を知った。何だか狐に抓まれたようで、ショックだった。

1975年に町田市に就職して、昼休みなど市役所前にあったお店によく通った。未来社刊『現代日本文学論争史』の3巻本を買ったのもそこだった。

ほどなく、もう少し駅よりの小学校に近いビルの2階に、いわゆる「黒っぽい本」(古書)を置く本店、道路を挟んだ向かいの1階に、定価の半額で売る「白っぽい本」(古本)の支店を構えた。仕事帰りに立ち寄るのが楽しみで、本好きの寺田前市長とも時々顔を合わせた。確かその頃には、荊野辺にも倉庫のようなお店があって、アラ

ーキーの「写真時代」などというきわどい雑誌を覗いたり、まだストアーズレポート編集長時代の椎名誠氏が書いた『クレジットとキャッシュレス社会』(教育社)などはそこで見つけた。

1985年、POPビル3階に大規模なお店が開店したのは驚きだった。それまでの本店と支店の品揃えをそのまま拡大し、150坪のフロアの約3分の1をA(古書)、残りの3分の2をB(古本)に区切って、全部で十数万冊もあったというのだから、何時間いても飽きない。私はおもにBフロアのお世話になった。

BOOK・OFFが町田にできたのは1999年3月。やはり相当の影響があったのではないだろうか。2001年には、駅から徒歩7、8分の森野1丁目の、もと学習塾のビルに移転した。ここでは、高原書店の原点である「古書」と「古本」の二正面作戦ではなく、教室だった各部屋が主題や判型によって分けられていた。4階建てビル1棟が丸ごと古書店というのは、全国的にも珍しい。文学館の講演会にお呼びしたある作家氏から、「町田に高原書店ってあるよね！」と聞かれてご案内したこともあった。この頃からネット

販売も本格化したようだ。

私は、店の入口外と1階奥にある均一本の平台を見るのが好きだった。100円均一が、時にはさらに2割引きや50円均一だったりするのだから、狭いわが家のことも考えずに、つい手が出てしまう。『フランスルネサンス断章』(渡辺一夫)や『おらんだ正月』(森銑三)の初版、昔の東京を知るのに便利な『東京生活歳時記』(社会思想社)、ちょっと怪しい『ゲバ・アン語典』(赤塚行雄)などという本も、みなこの均一棚で手に入れた。レジで、「これ、均一で良いの?」と聞くと、「あっ、構いません!」と大らかだった。

長く図書館に勤務していたこともあって、2005年に亡くなられた店主の高原坦(ひろし)さんにも、大変お世話になった。2000年に町田で開催した「遠藤周作回顧展」では、図録にインタビュー記事を書かせてもらった。遠藤周作氏とは、生前から蔵書の処分などでお付き合いがあったのだ。また、図書館に来られると、館長室で本の話などもいろいろと聞かせていただいた。「うちに小説を書いているミウラ・シオンっていう娘がいる。そのうちきっと大きな賞を取ると思うから、今度紹介するよ」などと話されたのは、私が文学館の開設準備をしている頃だった。

文学館ができたのは2006年10月だから、高原さんをオープニングにお招きすることはでき

魔窟のような店内をワクワクしながら 書籍を探す楽しみが消えた—とは

清原 理

高原書店閉店の突然の報道に接して、これまで通った時のこと思い出してみています。

まず最初に思い出すのが、セレクトされた魅力的な書籍がこれもあれもと迎えてくれていたイメージ。文化や知的な薫りがする書籍が分野べつに丁寧に並べられた本棚。このまま自分の本棚にあるといいなと思わせるこれらの書籍ですが、そんなに自宅に収蔵できるわけでもなく、ましてお金がふんだんにあるわけでもないの、今日はこれを買っていこうと数冊、いや一冊を選ぶ。ここでは、哲学や社会学系、宗教系などを選ぶことが多かった

なかったが、『まほろ駅前多田便利軒』が直木賞を受賞したのはその数カ月前で、開館に大いに弾みをつけてもらった。その後も奥様には、文学館の資料収集はもとより、イベントなどにもお力添えいただいた。

すべての本に時代的価値があり、それをできる限りストックして、将来に向けて流通させるのが古本屋の使命、という高原さんの思想。その実践としてご夫妻の郷里である徳島に広大な倉庫を確保し、100万冊を超えるストックを維持されていた。店売りはともかく、ネット販売が好調と聞いていた、そんな矢先の閉店である。

倒産に至る経緯など知る由もないが、高原書店の数日前には、やはり町田で知人ぞ知る、40年の歴史を誇るジャズ喫茶「NOISE」が閉店した。この6月には市立博物館も閉館し、鶴川図書館やさるびあ図書館も「集約化」という廃止方針が打ち出されている。

うわべの賑わいばかりに目を奪われて、地味ではあっても多くの人びとに親しまれ、心豊かな日常生活の支えとなってきた大切な場所が、それとして維持できない町とは、いったいどういふものだろう。

単に惜しいとか、淋しいというだけではなく、この町の、またこの国の何かが狂っているのではないか。(当会会員・まちだ未来の会世話人)

記憶があります。1階の階段の手前の廉価本コーナーで父(清原悦志)が装丁した雑誌を救出!したこともありました。

この古書店にこの本があったという出会いの喜びが多くあります。僕は、哲学や社会学系、宗教系以外にも、ホビー系の書籍や雑誌にも興味津々ですが、1階のレジを過ぎた右手の漫画のコーナーも素敵な掘出し物に出合える場所でした。ブックオフでは出合えないようなレアな漫画や、年代が古いものなど、古書店というより漫画の歴史ライブラリーのような空間でした。階段にもまだ整理途中らしい書籍も散見でき、宝物を探すように店内を巡ることができるのも醍醐味でした。小さな空間を有効に活用して“こんなところにも”という場所

にも本棚があり毎回新しい発見がありました。

最後に訪れた頃は少し本棚に隙間があり、多分整理したり補填したりしていないなど感じました。四国？にあるらしい倉庫からまだ補填が来ていないかなと考えていました。自分の住んでいる街の大切な居場所のような空間がなくなり、なんだかあの魔窟のような店内をワクワクしながら哲学書などの書籍を探ることができなくなったとは残念です。
(地域創発プロデューサー)

文化の匂い

本田 亮



高原書店が閉店したことを僕が聞いたのは、町田ノイズが閉店した3日後だった。2019年の黄金週間の終わりと同時にこのふたつのお店が無くなってしまったことは、僕を含む町田に暮らす人達にとっては、少なからずショッキングな出来事だったに違いない。この店が無くなったなら町田には一体何が残るんだ、と嘆く人も居たことだろう。

僕もそのように思っていた一人で、特に町田ノイズは週に何度も通う、自分の寝室のように落ち着ける居場所だった。カウンター席で欠伸をしながら漫画を読むこともあれば、日がな一日仕事の絵を描いたりもした。自分よりずっと年下の店員に弱音を聞いて貰うこともあった。何の気無しに行き始めた場末のジャズ喫茶は、しっかりと僕の心の拠り所になっていた。

こういった場所を好きになるのに、理屈などは必要ない。味がどうか、コスパがどうか、そういう話ではまるっきり無いのだ。特筆すべきは人間臭さなのだ。キレイなものばかりで覆われた世間では感じることでできないその匂いに、コーヒー一杯の時間で、今までどれほどの人が惹きつけられたことだろう。

町田ノイズと比べると、僕が高原書店を訪ねた回数というのは、正直ずっと少ない。まだ高原書店の存在を知らなかった頃、仕事を共にした編集者に「町田に住んでいて高原さんを知らないのですか」と言われ、ひどく恥ずかしい気持ちになったのを覚えている。たかだか古

本を手放した罪悪感が薄らぎました

桃澤洋子

高原書店がマスコミに取り上げられ、その閉店が各方面から惜しまれていることを少しも知りませんでした。毎日新聞に載った記事や書店出入口の写真も、私の記憶にある高原書店とは違っていました。でも、高原書店のことは良く憶えています。

夫が、登山中の滑落事故で急死し7回忌を終えたのを期に、終活を始めた私の目に、居間の「書棚」兼「飾り棚」を占める『世界文学全集』と『日本文学全集』がまず目につきました。茶色の分厚い背表紙に黒い文字。そのほとんどが既読本。それら書籍類の就活の助け舟は高原書店でした。なぜか、その名がインプットされていたのです。

買い取りをお願いするとすぐに来てくださり、「全集物は値が付き難いのですが・・・」と言いながらも引き取ってくださいました。後日、お店をこっそり訪れ、書棚に堂々と並んでいるのを目にして、本を手放した罪悪感が薄らぎました。

いま、我が家の居間の書棚には、思い出の人形やカラフルな小物類・孫たちの写真が並んで老いの目を楽しませてくれます。

最盛期5人ぐらして在りにしき

独り吾が位む 家も古びて

(歌人、当会会員)

本屋で市外の人にも知られているとはどういうお店だろう、と初めて踏み込んだ高原書店はまるで異空間で、書店自体が本で出来ているかのように本で溢れ返っていた。店内は古本屋特有の匂いが立ち込め、そこら中に積み重なっている本のタワーの間を用心しながら歩いていると、さながら本の街にやってきたガリバーのような気分になった。

町田ノイズや、高原書店のように、文化を有する場所はどれも魅力的な匂いを持つものだ。それはコーヒーの香りだったり、紙やインクの匂いだったりする。ただそれ以上に、その店から醸し出る嘘偽り無い「人間臭さ」という匂いに僕らはきっと惹かれていたのだ。
(イラストレーター)

大好きな鶴川図書館のために 鶴川に住む人と商店街とが力を合わせ楽しいイベントをつくしましょう！



去る5月19日(日)午後2時から鶴川市民センター第2会議室に於いて標記の会を開催。参加者18名、その内鶴川地域の方が多く、自己紹介の後、話し合いました。

◇鶴川バザー関連:5/26 商店街「太陽のひろば」で行われるバザー申込みについて、未来の会世話人会で考えたことを提案、承認されました。

①地元グループ立ち上げ:バザー参加にあたって、鶴川図書館のための地元グループの立ち上げを提案したところ、「鶴川図書館大好き!の会」が誕生しました。会員は(まちだ未来の会の集まりに参加している人と、本日の参加者)とし、富岡秀行さん(団地センター名店会事務局長)と佐久間弘雄さん(5丁目団地自治会会長)のお二人が共同代表に、鈴木真佐世(未来の会世話人、地元の柿の木文庫会員)が連絡係に決まりました。そして、楽しい標語をと、さっそく「We ラブ(♡)鶴川図書館」が提案され決定。バザー当日この標語ののぼりを立てることにしました。

②バザー当日の段取りの手配について:配布するチラシ内容、古本市、図書館クイズなどを話し合う。

・チラシ案:問題点をもっと具体的に分かりやすくする。サッカー場やモノレール関連、薬師池公園等に計上された市の予算と、鶴川図書館の経費の削減等を具体的に出して、税金の使われ方の問題点、地域の図書館が住民にとってかけがえない施設であることをアピールする。本日の意見を踏まえて、未来の会世話人会で調整する。

・古本バザー:提供してもらえる予定冊数(新本の児童書、中古の文庫本など)をお知らせし、後日、世話人で準備することを報告。

・鶴川図書館クイズ:10問くらいの問題を用意し、回答した子ども達へプレゼントを用意したいとの



提案に、Sさんが手作り紙コマを30個くらい提供すると応じてくれました。

◇その他、イベント等について

①7月夏祭りについて:27、28日両日行われ、出店料2000円。当日は出店でひしめき、ステージや盆踊りがあるなどという情報が得られ、参加の目的は、知ってもらうことであり、次回にアイデアを持ち寄ることに。

②「まちチャレ(生涯学習センター主催)」:まちだ未来の会世話人会として応募し、審査を通ったこと、町田の歴史と町づくりを考える講座を全5回で計画している旨を報告。

③その他 意見交換

Q:鶴川図書館の廃止が決まったとのことだが、市は今後どう動くのか?

世話人:市は、図書館廃止をURの建替え時としていたが、センター名店会が商店街区の建替えをしないとしたので、今後の市の対応に注目したい。議会では、建替えに関わらず、ある時期に判断すると回答。だが、今年度中にどうなることはなさそう。今、最後の展示会を開催中の市立博物館の場合、存続を求め周辺自治会の署名が多く集まったが、廃止方針が示されてから地域の盛り上がりが下火になった。鶴川ではこれからも取り組みを続行。

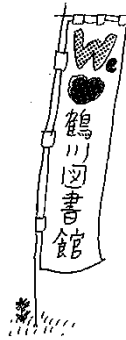
富岡:URとの建替えの話し合いは無駄となり、3月以来ストップしているが、UR側の人事異動もあり、今後何らかの新しい提案があるかもしれない。

佐久間:現在計画中の団地建替えでは、国土館大学側の賃貸12棟のうち希望者の分6棟は建替えし、6棟は取り壊して更地にする予定。

Q:6月議会はいつから始まるか

議員:議会予定は、6/6から本会議。11日より一般質問。その後常任委員会。

・9/15に「23万人の個展」を意識した市民のイベントをシバヒロで企画中。



- ・日本図書館協会監修で、すぐれた図書館の一日をビデオにまとめて作ったものがあるが、鶴川図書館の1日をテーマにした映像を作りたい。
- ・能ヶ谷のみどりの森保育園では、ママさんブラス(吹奏楽)が、年10回以上演奏活動をしている。無償なので出演依頼あれば受ける。(園長)

・自分の会で図書館とのコラボを企画。

お知らせ 第2回「鶴川図書館大好き!の会」
7月6日(土)14:00~16:30
鶴川市民センター第1会議

5/26(日)「鶴川図書館大好き!の会」バザーに参加

鶴川団地「太陽のひろば」で行われた「鶴川バザー」に、参加しました(上記参照)。大好きの会の地元の方たちがスタッフとして積極的に関わり、来場者と共に楽しみました。

・古本市:有志から寄贈された古本や新本を並べた本棚で、「古本未来堂」を開店。絵本を探すパパやママがいたり、何冊も文庫本を選んでいるお客さんもいて、大繁盛でした。

・鶴川図書館クイズ:司書の方の協力も得て、鶴川図書館に行かないと答えが見つからない、年齢に合わせたクイズを10種類用意。子どもたちは図書館に行って自ら答えを探したり、職員に尋ねたり…。クイズ用紙に回答を記入し、紙コマとお菓子をプレゼントにもらって、木陰のおはなし会コーナーで、絵本を読んでもらったり紙芝居を見て楽しみました。

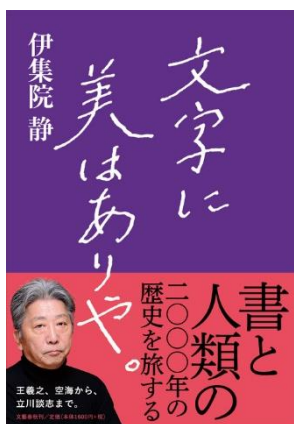
このバザーで、多くの方に鶴川図書館の現状を伝え、市長への要望書の署名もしていただくことができました。30度を超す暑さの中でしたが、図書館や本を通じて、地域の人々と交わることができ、有意義な1日でした。これからも、色々なイベントを通じて、鶴川図書館を愛する気持ちを多くの人たちと共有できたらと願っています。



(報告/まちだ未来の会:鈴木真佐世、守谷信二)

こんな本 みつけた! (第17回)

『文字に美はありや。』 著者 伊集院 静 / 文芸春秋 刊



古希を迎えた頃、習字を始めようと思い立った。私の字は乱雑で嫌悪を覚えることすらあるということが主な動機だが、時折目にする気持ちのいい字、例えば子供向けに書いたと思われる良寛さんの字を見ると心底いいなと思うし、そんな字が書けないものかとも期待したのである。

さっそく先生から行書は王羲之の集字聖教序、楷書は褚遂良の雁塔聖教序を与えられ、そこそこ真面目に手習いをしている。

時折書道展に出掛けるが得心の書に出合う事はめったにない。

そんな折、表題の本に出合った。帯に「書と人類の2000年の歴史を旅する」とある。書聖王羲之から始まってビートたけし、更にはロボットの書まで紹介されている。軽妙洒脱な語り口で飽きさせることなく古今の著名人とその書を紹介してくれている。どちらかと言うと書より人そのものに力点がある。そこがミソで、書とは書いた人そのものだという事が分かる。と言う訳で 私の字は私そのものという事で全部バレちゃうなあといささか悲観的に納得せざるを得ないらしい。

言い忘れるところでした。その本に西田幾多郎の白砂青松という書が掲載されていて、これがすばらしい。ぜひ御覧ください。

(大字根弘司 / 大字根建築設計事務所)

第9次地方分権一括法可決・成立、図書館法等一部改正、

公布と同時に施行

手嶋 孝典

● はじめに

地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律(第9次地方分権一括法)が、図書館友の会全国連絡会(以下「図友連」)や図書館問題研究会などの反対を無視して、5月31日に参議院本会議で可決、成立した(公布は、6月7日、同日施行)。

これにより、教育委員会が所管する公立の図書館、博物館、公民館その他の社会教育に関する教育機関(以下「公立社会教育機関」)の設置、管理及び廃止に関する事務について、地方自治体の判断で条例により、地方自治体の長(以下「首長」)へ移管することが可能となった。

● 趣旨は妥当か

その趣旨として、公立社会教育機関について、まちづくり、観光など他の行政分野との一体的な取組の推進等のために地方自治体がより効果的と判断する場合には、社会教育の適切な実施の確保に関する一定の担保措置を講じた上で、条例により首長が所管することを可能とする、と謳っている。しかし、「まちづくり、観光など他の行政分野との一体的な取組の推進等」は、教育委員会の所管でも十分可能なはずである。

そもそも、図書館をまちづくりに役立たせようとするなら、図書館が本来持つ機能を発揮することにより、それを可能にするべきである。ツタヤ図書館のような目新しさによる集客は、まちづくりとは無縁のはずである。ところが、ツタヤ図書館をつくれれば、まちづくりになると勘違いしている首長の何と多いことか。ちなみに、観光は博物館を想定しているらしいが、博物館を金儲けの手段に貶めていいのだろうか。

● 担保措置は有効か

「公立社会教育機関を移管する場合に、学校教育との連携や教育の中立性等の確保の観点から、社会教育の適切な実施を確保するため、教育委員会の関与に関して一定の規定を設ける」、すなわち、以下のような担保措置を講ずると

しているが、果たしてそれは有効だろうか。

①首長がその所管する公立社会教育機関の管理運営に関する規則の制定を行う際には、教育委員会に協議しなければならない。

②移管される公立社会教育機関に関する事務のうち、教育委員会が所管する学校、公立社会教育機関等における教育活動と密接な関連を有するものとして、規則で定めるものの実施に当たっては、あらかじめ首長が教育委員会の意見を聴かなければならない。

③教育委員会は、必要と認めるときは、公立社会教育機関に関する事務について首長に対して意見を述べることができる。

つまり、①は首長が教育委員会に協議する義務、②は首長が教育委員会の意見を聴く義務、③は教育委員会は、首長に意見を述べるができる、というものである。この程度のことを規定したとしても、①教育委員会に協議した、②教育委員会の意見を聴いた、③首長に意見を述べた、で済んでしまう。図友連は、「首長に誤りがあっても正すのは困難」として明確に批判している。これを担保措置などというもおこがましい。

● 附帯決議はされたが

衆議院は4月25日に地方創生に関する特別委員会において、参議院は5月30日に内閣委員会において、それぞれ附帯決議がなされた。

図書館に関わる部分を抜粋すると、衆議院は「五 地方公共団体の長が公立社会教育施設を所管する場合にあっては、社会教育の政治的中立性、継続性・安定性の確保、地域住民の意向の反映、学校教育との連携等により、多様性にも配慮した社会教育が適切に実施されるよう、地方公共団体に対し、適切な助言を行うこと。」「七 本法の公立社会教育施設に関する規定の施行後三年を目途として、その施行状況を検証し、必要があると認める場合には、社会教育の適切な実施のための担保措置等について、所要の見直しを行うこと。」とされている。

参議院もほぼ同じ内容だが、五の後に「特に、

図書館、博物館等の公立社会教育施設が国民の知る権利、思想・表現の自由に資する施設であることに鑑み、格段の配慮をすること。」が加わっている。

法「施行後三年を目途として」、「見直しを行うこと」がどのような結果をもたらすか、見通すこと

は難しい。本紙№234に図友連運営委員の山口洋さんが書いているように、今後は地方自治体がどのように検討するのか、また議会がどこまでチェックできるのか、自治体の水準が試されることになる。もちろん、社会教育施設を利用している住民の自治意識・能力も問われるのである。(会代表)

現状を正しく把握し、少しでも良い方向へと努力することの大切さを学ぶ

～すすめる会定例会に一年間参加して～



松下 佑子(金森図書館)

伊藤 あや(文学館)



2018年度、私達は自治労町田市図書館嘱託員労働組合(以下「組合」)の担当執行委員として、団体会員である「町田の図書館活動をすすめる会」(以下「すすめる会」)の定例会に出席させて頂きました。

この一年、図書館・文学館で働く私達の身近なところには、昨年からの公共施設再編計画に伴う在り方見直しや、会計年度任用職員制度についての交渉など様々な問題がありました。文学館はすすめる会の署名活動等のお力添えもあり運営手法の検討は継続しながらも存続がきまりましたが、鶴川図書館については、今年1月に「鶴川図書館の存続・充実を願う要望書」が提出されても依然として鶴川駅前図書館との集約という方向で話が進んでいます。

会計年度任用職員制度はいよいよ来年4月から施行になります。そのため自治労町田市職員労働組合と自治労町田市役所ユニオンと合同で制度確立に向けた要求書を出すなど、新しい動きもありました。報酬があがるかもしれない、けれどこれまでより簡単に雇用を切られるようになるかもしれない。様々な可能性があり当局との交渉も正念場を迎えます。施行は来年度からですが、多くのことはまだこれから決まります。主任嘱託員制度の現行水準維持、安定した継続雇用など、これまで組合で長い年月をかけて獲得してきた待遇の継続、更なる処遇改善を求めています。

昨年11月には、すすめる会会員の方々から要望があり、組合三役と会計年度任用職員制度についての意見交換会が開催されました。様々な問題が不安定な身分の私達を吹き飛ばすのでは

ないかという不安が渦巻く中、図書館・文学館で働く嘱託員の処遇を我が事のように真剣に気にかけて支えて下さる方たちがいることは、とても心強いです。

すすめる会の方々の視野の広さと行動力はこの一例ではとても伝えきれませんが、そのエネルギーに私達は一年間圧倒され続けました。互いに多忙な日々を送っているのは当然としながら忌憚のない意見をぶつけ合い精力的に次の企画へ取り組んでいくエネルギーは一体どこから溢れ出てくるのだろうかと最初は不思議に思うほどでしたが、「町田の図書館を、ひいては日本の未来を少しでもよいものに」というシンプルな想いが一人一人の行動を支え、いつの間にか大きな活動にしているのだと段々と感じるようになりました。

定例会出席を契機に皆さんの影響を受けて学習会やイベントに参加したり、まちだ未来の会の学習会の報告を見たりして、図書館がなくなってしまうのは困る、鶴川図書館には昔から通っていて大好きというような声がある反面、頻繁に利用しながらも廃止問題については知らない方が思いのほか多いということがわかりました。

「知恵の樹」で取り上げられている地方分権一括法案の問題にみられるように、町田に限らず図書館や文学館をめぐる状況は厳しいものになっています。

まずは現状をたくさんの方に知っていただくことが本当に大切だと感じます。普段働いている中だけでは中々気づけないことも多いので、今回担当として関わらせて頂けたことがとても良い機会となりました。(町田市図書館嘱託職員)



例会 5/28 (火) 報告

- ・16:30～印刷・発送作業等:
久保・丸岡・増山・手嶋・清水・守谷
- ・18:00～19:40 中央図書館・中集会室
出席:石井・伊藤・久保・清水・鈴木真
手嶋・増山・松下・守谷

議題

1. 会報 (No.236) 記事について

- ・町田の老舗古書店高原書店が閉店した。是非記事として取り上げて欲しい(久保)⇒4名の方に原稿依頼 (p1～3)・まちだ未来の会第 22 回学習会報告 (p4, 5) ・「こんな本見～つけた！」(⇒建築家の大宇根弘司さんに依頼／p5)
- ・教育委員会所管の社会教育施設を首長部局に移管できるという大問題について。手嶋執筆 (p6)
- ・図書館嘱託労から出ているお二人は、今月が最後の例会。1年間の感想を寄せてもらう。(p7)

2. 今年度の世話人、その他、について

多くの会員に集まってもらって話し合おうとメンバーリストで出席を呼びかけ日程調整をした結果、結局は+2名だけで本日の例会と同じ日時となった。そのため、代表、副代表は未定のまま、以下の役割が決まるにとどまった。

書記(嘱託労)、会計(石井)、会計監査(守谷・鈴木真)、会報編集(手嶋・清水)、ホームページ管理(鈴木真)、ML 管理(鈴木薫)、図書館会議室・印刷室予約・印刷用紙調達(中央図書館高松さんに打診⇒OK)、図友連 ML(手嶋・増山)。山口さん(会員)は図友全国連運営委員として活躍。

- 町田市立図書館長より協議会委員2名(任期:2019年8月より2年間)推薦依頼あり⇒清水、鈴木真を推薦。

- 会報印刷用紙は、市職労の予算で2019年9月迄納入済み。その後は、当会の予算から出す。
- 会員名簿及びメンバーリスト(ML)登録者名を整理する。会費の未払い等がある人は、下記に振り込んで欲しい。／振込先:きらぼし銀行 (0137) 成瀬支店(835)
口座名「町田の図書館活動をすすめる会」
口座番号 0359917
- ML について:これまで使用してきた Freeml が12月をもってサービスを停止する。現在次のサービスサイトを検討中 (鈴木薫)

3. 今年度の活動計画

「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」への対応/「まちだ未来の会」との連携活動/「すすめる会」独自の取り組みについては、来月に持ち越し

団体及び個人から/報告&お知らせ

▷図書館嘱託労

- ・6/13(木) 図書館嘱託労第12回定期大会

▷まちだ未来の会:

- ・第22回学習会実施(p4, 5報告)/古本市でのバザー売り上げ約1万2千円
- ・生涯学習センター主催の「まちチャレ」に「町田の歴史・文化とまちづくりを考える」のテーマで応募、見事採用された。10月より月2で全5回開催するが、広範な市民に会をアピールして、ひとりでも賛同者を増やしたい。

・鶴川図書館大好き!の会の集い/第1回 6/16(日)、第2回 7/6(土)、14:00～16:30 場所:鶴川市民センター <問:090(1863)5174 鈴木>

▷野津田・雑木林の会

- ・5/30(木)、中央図書館書庫にある「かがくのとも」バックナンバーを全冊みせてもらう。当会が児童書フロアに開設している「小さな自然展示コーナー」の年間計画検討のために要望、快諾を得た。
- ▷ことばらんど応援部を充足準備中 (守谷)

▷7/1(月)15:00～ 図書館協議会第16回定例会

▷7/16(火)10:30～第9回まちだ図書館まつり説明会開催、中央図書館ホールにて。

あとがき ピンチヒッターで会報を担当した。編集者は、日々関連情報に目を光らせることが肝要だが、久しぶりにその事を思い出した。(M⁴)



← 生きるための図書館

竹内 哲 著

岩波新書 2019/06/20

本体 780 円 + 税

60 年以上図書館に携わり、90 歳を超えても発言を続ける著者が、地域・学校での希望に満ちた可能性を語る。